

高学年が低学年の野菜づくりをバツグンに 「ものづくり」でも成功!

雑誌『食農教育』より

福岡・鞍手町立室木小学校の実践

ダイコンをめぐる 多彩な調べ活動

一年前の『食農教育』誌(二〇〇一年三月号)で、福岡の鞍手町立室木小学校を取材した。ちょうど、大根サミットを目指して、三・四年生二六人が自由闊達な調べ活動を行なっていたところだった。

青首ダイコン、白首ダイコン、二十日ダイコン、桜島ダイコン、聖護院カブ、聖護院ダイコン(守口ダイコン)はさすがにタネを入手できず、一・八五mもある長い根の模型をつくったりしていた。たぐさんの品種を集め、生育の違いを調べたり、日陰と日向、花壇と砂場での生育観察を



田代くん(左)と大丸くん(右)は物干や古ぼくまで即席ビニールハウスをつくって桜島ダイコンを栽培。(二年前の実践から。『食農教育』二〇〇一年三月号より)

続ける。なかには、桜島のように暖かくするために物干や古幕で即席の屋上ビニールハウスをつくって桜島ダイコンを育てる(写真)など、子どもたちが学校中を縦横無尽に駆け回りながらのびのびとした学習が展開されていた。

冬トマト
チャレンジ

その後、子どもたちはどうしているかな? と思っていた矢先の昨年九月、福岡からこんな手紙がよせられた。

「学校園でトマトの苗が育っているのを見つけた。これからは育てたいので、冬にトマトは育つのか?」

室木小六年の野見山静霞さんからだ。野見山さんはあとの四年生。六年生になっても探究心旺盛に活動しているようだ。鉢植えにして、温度を高くはならないかもしれないと、教室の窓際で育てれば育つかも知れません。でも、赤い実を結ぶのは難しいかもしれないね。そんなやとりがなされた半年後、今度は「冬トマトができました!」という元気な報告が飛び込んできた。

「三・四年生の富田有菜ちゃんと福本ひろ道くんが

育てている野菜のことをまよめたので、ぜひ『食農教育』に載せてください。その冬はトマトの収穫です。冬はトマトはならないかもしれないと、言われたけれど、今、実がなっています。本だけが正しいわけじゃないとわかりました。チャレンジすることを広めてください。」

「食農教育」
『食農教育』二〇〇二年四月増刊号「食農教育」二〇〇二年四月増刊号「食農教育」二〇〇二年四月増刊号

バケツ稲をコアにした 総合のカリキュラムづくり 『食農教育』二〇〇二年四月増刊号

バケツ稲は、近くに田んぼがないところでも、一粒の種もみから稲が成長し収穫、調理するまでの全プロセスを手軽に体験することができ、河辺小の実践の通り、学校園のある場合でも、バケツ稲の栽培と組み合わせること子どもたちの稲とのかかわりはぐっと深まる。このバケツ稲づくりから広がる総合的な学習の時間の一年間の授業プランを提案するのが『食農教育』四月増刊「バケツ稲 12カ月のカリキュラム」。もともとは、河辺小をはじめ全国二〇校の実践である。このカリキュラムを見ると、小さなバケツ稲から、水田の環境や稲の生育、メダカやスズメなどの生きものとの関係、米ぬかやワラなど稲の文化、地域の人の暮らしや歴史など、大きな学習の扉が開けられ、読者からは、「バケツ稲をコアにしたい本、高校でも使える」という声も寄せられている。

この授業プランを、各学級・学年・学校や地域の実態にあわせてアレンジすれば、今年度のプランが広がっていく。総合的な学習の時間だけでなく、理科や社会科、算数や国語など、教科学習にも役立つ本である。(800円)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
内容	稲の種もみから稲が成長するまでを体験する。	稲の成長の様子を観察し、記録する。	稲の収穫体験を行う。	稲の収穫体験を行う。	稲の収穫体験を行う。	稲の収穫体験を行う。	稲の収穫体験を行う。	稲の収穫体験を行う。	稲の収穫体験を行う。	稲の収穫体験を行う。	稲の収穫体験を行う。	稲の収穫体験を行う。

低学年の農園活動を 六年生が取材

本人にプレゼントしたのだという。

年下の子どもたちの活動とおして、自分自身と栽培活動、食べもののかかわりを見つめ直す。わかった深い答えが返ってきた。六年生にもなる栽培にもなれて、中学年のころのような新鮮な驚きがなくなってしまう。そこで、今度は少し角度を変えて学校園とかわったのだという。

六年生が低学年・中学年から特定の取材対象を決めて、二学期の四月月をかり、その子の野菜づくりを追いかける。新聞や絵本など、自由な形でそれをまとめ、六年生を送る会」で

野見山さんは、三・四年生の富田さんと福本くんから特定の取材対象を決めて、二学期の四月月をかり、その子の野菜づくりを追いかける。新聞や絵本など、自由な形でそれをまとめ、六年生を送る会」で

『食農教育』
『食農教育』二〇〇二年四月増刊号「食農教育」二〇〇二年四月増刊号

北海道のタネモミプレゼント要項

雑誌『食農教育』の定期購読者で、ご希望の方。送料120円分の切手を同封して申し込んでいただく。新しく『食農教育』の年間予約購読を申し込まれる方、または「写真でわかるぼくらのイネづくり(全5巻)」を購入される方。送料サービスで小袋をお届けする。

東京国際ブックフェア2003「農文協ブース」来場者には、小袋を無料で頒布する。フェアの開催は、2003年4月24日(木)から27日(日)、東京ビッグサイトで。

【問合せ】〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1 (社)農山漁村文化協会内「北海道のタネモミプレゼント」係
電話03-3585-1144 F A X 03-3585-6466
HPよりの申込み: <http://www.ruralnet.or.jp>
【協力】北海道・JA新しのつ

昨年大変好評でした。今年もラッカセイのタネをプレゼントいたします。抽選になります。

学校で、グループで、ご家族で、大いにそだてる(学校名・担当者名)・電話番号・Eメール 濃希望体験してください。このラッカセイは、千葉県産の落花生主産県産協議会よりご提供いただきました。品種名は「千葉半立(ちばはんたち)」といえます。ゆで豆料理に適したラッカセイのことです。このラッカセイをそだて、ゆで豆料理や「豆腐」を作ってみるのも面白いかもしれません。育てた感想や絵・写真など、ぜひ、農文協までお送りください。インターネットほかでご紹介いたします。

なお、今年はその栽培体験をご報告いただける方一〇名様に落花生主産県産協議会から「そだててあそぼう」ラッカセイの絵本

農文協の教育雑誌

定期購読受付中

保健室

保健室だから見える、教室では見せない子どもたちの本当の姿。養護教諭からの発信。編集・全国養護教諭サークル協議会/隔月刊、A5判、700円、年間4800円

【105号・4月】特集・いま健康診断を考える

健康診断政策の動向と「プライバシー」問題/子どもや親に還元できる健康診断をめざして/色覚検査改定を受けて教師に求められること/「健康診断の見直し」の最終報告にどう向かっていくか/データから見えてくる「健康診断」の問題点

700円

技術教室

「ものづくり」から社会や生活を見詰め、生きる力を育てる教育を追究。唯一の技術・家庭科専門誌。編集・産業教育研究連盟/月刊、A5判、720円、年間8640円

【4月号】特集・「ものづくり」を変える情報活用

「総合」との相互補完で効果アップ/生活に密着した情報教育とは/1人1台で「情報とコンピュータ」を活性化/中高一貫の情報教育の取組み/こんなに楽しいIPCの授業/中学3年間を通した「情報」への取組み/JavaScriptプログラミング授業

720円

初等理科教育

実践例豊富な小学理科の総合専門誌。子ども理科離れに危機感を持つ仲間たちの情報交流。編集・日本初等理科教育研究会/月刊、B5判、700円、年間8400円

5月増刊号 子どもがのびのびと 楽しい理科の導入の工夫

【巻頭インタビュー】田中耕一さん(ノーベル化学賞受賞者)が受けた理科授業 恩師 澤村誠さんに聞く/【3年】植物をそだてよう、日光とかけ他【4年】季節と生き物、星の動きかた、電気のはたらき他【5年】植物の発芽と成長、流れる水のはたらき他【6年】ものの燃えかたと空気、水よう液の性質他

2000円

【注文は】 農文協(社団法人 農山漁村文化協会) 〒107-8668 東京都港区赤坂7-6-1 TEL.03-3585-1141 FAX.03-3589-1387 振替00120-3-144478 URL <http://www.ruralnet.or.jp/> (価格は税込)